

おおさきマイルプロジェクト 「古川南地域まごころ届け隊」

古川ボランティア連絡会・大崎中央高校・県内NPO団体等のご協力のもと、被害のあったご自宅を一軒一軒訪問。災害ボランティア活動支援プロジェクト会議のご協力のもと集まった物資「うるうるパック」を配布しながら、被災から3ヶ月が経過した今の困りごとなどを伺いました。



訪問調査チーム

被災地域の高倉矢目地区・古川南地域の被災世帯を中心に、大崎社協職員と県内応援社協職員による訪問調査を実施。住民の方から伺ったニーズをボランティア派遣や福祉関係機関(DCAT他)へとつなぎました。



10/3 災害ボランティアセンター閉所



9/23



災害ボランティアセンター活動報告会

大崎市災害ボランティアセンター（以下災害VC）閉所から約2ヶ月後に、鹿島台の県介護研修センターを会場に「関東・東北豪雨災害ボランティアセンター活動報告会」を開催しました。災害VC運営に携わった県内外の社協職員やボランティア87名が参加し、災害VC運営時の活動報告や意見交換をし、今後の災害時に備えた取り組みについて協議しました。

はじめに、大崎市社会福祉協議会本田民夫常務理事兼事務局より大崎市災害ボランティアセンターの活動報告を行い、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）の桑原英文幹事より「社協が災害時に果たす役割について～平常時における地域福祉・ボランティア活動を踏まえて～」と題した基調講演のほか、「運営・総括」「災害VC機能」「サテライト運営」「訪問調査活動」の4つのセッションに分かれて①住民に寄り添った支援ができたか②災害時前の平時の取り組みは活かされたか③社協間や他団体などとの『つながり』を支援に活かされたかの3点を切り口に各グループで情報や意見交換を行いました。

報告会を通じて、日ごろの『つながり』や『地域づくり』が災害時に活かされることを再認識し、活動を振り返りました。



ボランティア通信

大崎市社協ボランティアセンター

2016.2

関東・東北豪雨災害に伴う大崎市災害ボランティアセンター

災害ボランティアセンターとは、被災された住民の自立と生活再建に向けて、ボランティアさんの力を「地域と住民の生活復興につなぐ仕組み」です。今回、9月11日に発生しました関東・東北豪雨災害に伴い、本会は大崎口腔保健センター内に大崎市災害ボランティアセンター（以下災害VC）を設置。9月11日の開所から10月3日に閉所するまで、多くの関係団体・企業・地域住民の方のご協力を頂きながら、被災住民に寄り添った「社協らしい福祉型」の災害ボランティアセンターを目指し、運営を行いました。

今回、被災された方から寄せられました211件のニーズに対して、県内外の個人・団体（23日間で延べ1,242名）の多くのボランティア支援をいただきました。本当にありがとうございました。



ありがとう活動（喫茶サービス）

災害VC受付にて、古川ボランティア連絡会の方々を中心に、活動を終えたボランティアの方々への温かい声掛けと、感謝の想いを込めた飲み物の提供が行われました。



高倉矢目・古川南サテライトセンター

本部（大崎口腔保健センター）の他に、水害の被害が特に大きかった高倉矢目地区と古川南地域2か所にサテライトセンターを設置。地域住民、企業・関係団体の支援を受け運営。古川南サテライトセンターにおいては、おおさき青年会議所様・日本赤十字社宮城県支部様との協働運営を行いました。被災された世帯での泥出し・片づけ・清掃・ゴミ出し等を中心とするニーズに対し、ボランティアの皆さんが安心安全に活動できるよう、派遣・調整を行いました。



9/22

9/20



9/14

9/13

9/12



9/11

災害ボランティアセンター開所

大崎市社協DCAT訪問

9/12福祉専門職で構成された大崎市社協災害派遣福祉・介護チーム(DCAT)が避難所を訪問し、災害発生直後の福祉ニーズの調査を実施(3チーム計9名)。10/2～10/6 収束期においては、事前に社協職員による訪問調査を受け、福祉ニーズを抱える世帯に対し、再度訪問調査を実施。福祉的な観点からの生活支援を目指し活動を行いました。

